

大阪 花と緑・光と水のまちづくり

平成15年3月17日

花と緑・光と水懇話会

はじめに

大阪は、長い歴史の中で、幾度も衰退の危機に直面したが、常に時代に的確に対応した先駆的まちづくりによって、これらを克服し、今日まで発展を続けてきた。

その大阪は、今また、経済のグローバル化、社会・経済の東京一極集中化、人々の生活の質の向上ニーズなど社会経済環境の変化の中で、大きな転換点を迎えている。

大阪は、これらに的確に対応して、新たな発展を目指さなければならない。

21世紀の大阪の発展を考えたとき、都市機能の向上を図る機能的・効率的なまちづくりと併せて、

- ① 人間を主役に据え、住みやすさと快適で美しいまちづくりが重要
- ② その際、大阪の持つ「水の都」としての魅力を最大限に活かし、花と緑、そして光あふれるまちづくりが重要

との認識に立ち、「花と緑・光と水懇話会」を設立して、今後のまちづくりのあり方について、検討を進めてきた。

その過程で、(財)大阪21世紀協会から「水の都大阪再生の戦略」の提案を受け、より建設的・効率的な検討を行うことができた。

ここに、これまでの検討結果を「大阪花と緑・光と水のまちづくり」として取りまとめ、今後これを基本に「花と緑・光と水のまちづくり」の推進に行政・経済界・市民が一致協力して取り組むとともに、国はじめ関係各方面に協力と連携を強く働きかけていく。

大阪 花と緑・光と水のまちづくり(案)

—目次—

1. 21世紀の都市づくりの方向	1
(1) 都心集積の再構築による大阪の再生	
(2) 「花と緑・光と水」のまちづくり	
(3) 個性あるまちづくり	
(4) ビジターを視野に入れたまちづくり	
2. 大阪のポテンシャルと課題	3
(1) 大阪の持つポテンシャル	
(2) 大阪の課題	
3. 21世紀大阪の花と緑・光と水のまちづくり	5
(1) コンセプト	
(2) 事業推進の基本的考え方	
(3) 花と緑・光と水を活かしたソフト事業	
(4) シンボルイベント	
(5) ハード整備との連携	
4. 花と緑・光と水のまちづくりを進めるために	9
(1) 推進体制の整備	
(2) 「水の都大阪再生協議会」との連携	
(3) 広域連携の強化	
(4) 積極的な情報発信とプロモーション	
5. これからの進め方について	10
(参考資料)	11
・ 委員名簿	
・ 検討経緯	

1. 21世紀の都市づくりの方向

(1)都心集積の再構築による大阪の再生

大阪の都市づくりは、戦後続いてきた右肩上がりの経済成長の終焉により、大きな転換点を迎えている。

これまでの地域開発は、経済成長に伴う大都市圏への産業集積・人口流入に対応し、郊外開発、すなわちニュータウンの開発等が進められ都市圏の拡大整備が進められてきた。

一方、都心部は過密等の環境問題による企業・人口の流出や大学の郊外移転等により、集積の低下が生じてきている。

今後、大阪の再生を図るためには、改めて都心に産業・人口の集積を図り、都市魅力の再構築を行い、都心部の集積と併せた大阪都市圏全体の発展を図る新たな対応が求められている。

時あたかも人口や、大学院の都心回帰への動きが始まりつつある。

(2)「花と緑・光と水」のまちづくり

21世紀の都市には、グローバルに展開する経済・産業活動にふさわしい場として最新の技術を導入した機能性・効率性を重視したまちづくりとともに、人間を主役に据えた住みやすく、生活のゆとりや楽しさを享受できるまちづくりが求められる。すなわち、住・職・遊が近接し、かつ、高いレベルでの生活の質を享受できるまちづくりである。そのため、都市機能の向上を担うプロジェクトの推進とともに、都市の中に花・緑・水など自然と親しむ空間、また、光や文化など都会の楽しさ、華やかさを享受できる空間づくりが強く求められている。

これら「花と緑・光と水」を明確なコンセプトとして掲げたまちづくりの推進によって、大阪は、人が住み、集まり、資金・情報・知恵が世界中から集まってくる都市へと発展できると考える。

(3)個性あるまちづくり

世界中で激しい都市間競争が展開される21世紀において、大阪がその競争に打ち勝ち、確固たる地位を占めていくためには、大阪のアイデンティティの確立が不可欠であり、そのためには大阪らしい個性的なまちづくりを進めていかなければならない。

そこで、今後のまちづくりに生かすべき大阪の長所や大阪らしさを的確に「選択」し、そこに「集中」したまちづくりが大切である。そうすることによって、国際的に通用する世界都市をつくり出していけるものとする。

(4)ビジターを視野に入れたまちづくり

わが国の人口は2006年頃にピークの1億2,774万人を迎え、その後は緩やかな減少過程に入るものと予測されている。このような中、都市の再生・活性化を図るうえで、「ビジター」のもつ重要性がますます高まってくる。

世界観光機関（WTO）によれば、1995年に5億6,500万人だった国際観光客到着者数（国際観光ビジター）は、2010年には10億人を超え、とりわけ東アジアの増加が一番高いと予測されている。この獲得をめざして、激しい都市間競争が展開されることとなる。大阪もこのビジターを引き付けることを明確な目標とした魅力あるまちづくりを展開していかなければならない。

2. 大阪のポテンシャルと課題

(1)大阪の持つポテンシャル

「花と緑・光と水のまちづくり」「個性あるまちづくり」を進めていくうえで、大阪は次のような大きなポテンシャルを持っている。

①「歴史都市」としての豊かな歴史的・文化的資源

大阪は、難波宮造営以来、千数百年の歴史を持つわが国最古の都市であり、これまでの長い歴史の中で

- i. 上町台地に広がる難波宮・大阪城、四天王寺・夕陽丘の社寺
- ii. 船場・中之島に残る近代的・歴史的建造物
- iii. 文楽・歌舞伎・落語・漫才などの伝統芸能

さらには、視野を広くとると

iv. 「歴史街道」で結ばれる難波津～百舌鳥古墳群～近つ飛鳥などの悠久の歴史の舞台などハード・ソフト両面で、豊かな歴史的・文化的資源を蓄積してきている。

②「水の都」としての都市の中の豊かな水辺空間

大阪は、古く難波津以来、常に内外交通の要衝であり、「みなと」の機能を基礎にして、都市の発展を図ってきた。そのために積極的な堀川の開削、その土による埋立によって大阪のまちの骨格が形成されてきた。このため都市の中心部に数多くの堀川が流れ、約400kmに及ぶ水際線、市域の10%を超える水面の面積など、大阪の貴重なオープンスペース・公共空間となっている。

③多彩な文化・スポーツ・集客施設

これまでの積極的なまちづくりの結果、大阪には、大阪城ホール・国際会議場・海遊館・USJといった集客施設、競技場・体育館・プールなどのスポーツ施設、歴史博物館・東洋陶磁美術館・中央公会堂・中之島図書館などの多彩な文化施設が集積するに至っている。

④都心の緑の空間

大阪は緑が少ないと思われているが、都心部には大阪城公園など上町台地の緑、大川・中之島の水面を含めた緑の空間、御堂筋をはじめとする緑豊かな並木道、さらには公開空地の緑など、これまでの緑化の努力により、緑あふれる都市空間が形成されてきている。また、「花の万博」を契機に市民や企業の花と緑への関心が高まってきている。

⑤多様な近隣の都市群

一極集中構造の関東圏と異なり、関西は京阪神をはじめとする大都市や地域が、それぞれの個性を持って自立する多核型構造となっている。これは、生活者やビジターにとって多彩な選択肢があることを意味しており、この圏域の大きな魅力となっている。

歴史の面からみても、京都・奈良だけでなく、和歌山でも「紀伊山地の霊場と参拝道」として、世界遺産への登録（平成16年6月）が準備されるなど、関西全体を合わせた魅力は全国的に見ても多彩で奥深い。大阪は圏域の中核としてハブ機能を有しており、これらの都市の連携を図るうえでの重要拠点に位置している。

⑥大阪人の優れたホスピタリティ

大阪人は、自己を積極的に表現し、バイタリティに富み、かつ、ユーモア精神とアットホームなもてなしの心をもっている。このような大阪人の気質は、これから人間性豊かな都市、世界中から人が集まってくる集客都市を作っていく上で、大きな財産と言える。

(2)大阪の課題

以上のように、大阪は大きなポテンシャルに恵まれている。しかし、この豊かな資産を十分に活かしてきれていないのが現状である。

そこで、

- i. まず、21世紀のまちづくりにとってきわめて優れた資源があることを再認識し、これらが新しい大阪の魅力となるよう積極的に活用していくことが必要である。
- ii. しかしながら、これらの資源は点在しており、ビジターに見てもらおう仕組みになっていない。このため、これらの資源をうまく結びつけ、ストーリー性のある観光商品に仕上げていくことが必要である。
- iii. また、ビジターに来てもらうには、大阪の魅力を知ってもらうことがまず重要であり、そのためにも情報発信の強化が大切である。今後、IT時代・グローバル時代にふさわしい適切な手法による積極的な情報発信とプロモーション活動を進めていく必要がある。

3. 21世紀大阪の花と緑・光と水のまちづくり

(1)コンセプト

近世以降、大阪では、水辺は市民が自然や四季を楽しむ貴重な場所であり、また、芝居や演芸の小屋も多く作られ、市民がにぎわう憩いの場であった。夜には、花火、夕涼み、舟遊びなどの場としても活用され、水辺の夜景は大阪の風物詩となっていた。

そして、その水辺は今、これまでのまちづくりによって、豊かな緑を備えた大規模公園へと整備が進み、多くの文化施設、集客施設、歴史的建造物も立地するなど都心の中の貴重な空間となっている。

今後、「花と緑・光と水のまちづくり」を進めていくとき、その舞台にふさわしいのは、水の都・大阪の資産であるこの水面・水辺を中心とした空間であると考え。そうすることによって、大阪らしい個性豊かな「花と緑・光と水のまちづくり」ができると考える。

したがって、これから進める大阪の都市づくりのコンセプトを

四季折々の花と緑あふれ、美しい光に彩られる水の都

とする。

このコンセプトを実現するための取り組み事例を以下に挙げる。

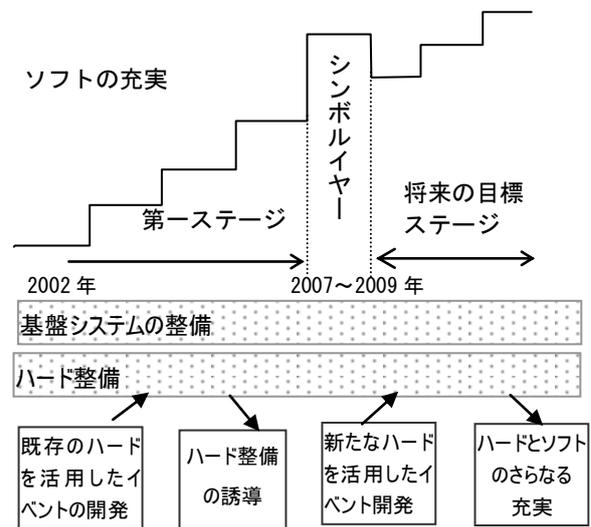
(2)事業推進の基本的考え方

①ソフト先行型のまちづくり（ストラテジック・イベント・ポリシー）

川、水辺を舞台とした「花と緑・光と水のまちづくり」にあたっては、大阪はすでに多彩な自然や文化の蓄積・資源を有しているため、ハード整備から入るのではなく、これら現在すでに存在している資源を最大限に活かす形のソフト事業（イベント）先行型で事業を立ち上げる。

大型イベントを開催することは、有効な手段である。ただし、期間も空間も限られるイベントでは、まちづくりへの効果も限定（点と線の開発に終わる）されざるをえない。このため、毎年繰り返しイベントを実施し、充実させながら、これらのイベントの内容をさらに盛り上げ、その成果を情報発信し、終了してもそのエッセンスがより高いレベルで継承されていくようなシンボルイベントを最も効果的な時期に実施するなど長期的視点に立ったイベント戦略を展開する。

こうしたソフトを主体とした取り組みと併せ、その集客効果を活用して、水都にふさわしい景観づくりや水上観光ルートの基盤づくり、水際の居住空間づくりといったハード整備を誘導し、これら整備されたハードを活用してさらに充実したイベントにつなげるなど、ソフト・ハードが相互に相乗効果をもたらす戦略的事業展開をめざす。



②「特区」型事業推進

花と緑・光と水のまちづくりは、長い期間をかけて着実に進めていくべきものである。そのためには、行政、市民、企業、NPOなどが各々の分野でできることを積極的に行う仕組みを作り、ある程度場所を絞って、そこにイベントやハード整備を集中させる事業手法が効果的である。具体的には、「大川－中之島から大阪港に至るゾーン」「東横堀川、道頓堀川、木津川につながるゾーン」「大阪城・難波宮・上町台地のゾーン」を特区的なエリアに位置付ける。

(3)花と緑・光と水を活かしたソフト事業

①戦略的イベントの開発

水の都大阪の創生に向けた段階的な取り組みの中で、歴史的・文化的資源をうまく結び付けて、花と緑・光と水を活用した戦略的なイベントを開発する。

【イベント例】

◎大阪リバーパレードフェスティバル

- ・歴史的な天神祭の船渡御や御堂筋パレードなど、大阪を代表する既存のイベントと連携しながら、水都大阪を代表する国際性豊かな水上イベントを開催する。

◎花と緑あふれる水辺のランドスケープ

- ・四季を通じて水辺の自然と親しみ楽しめる大阪の新・名所づくりを展開し、市民の快適な環境づくりへの意識を高めるほか、大阪の水辺の魅力をアピールしていく。

◎光による美しい都市景観の演出

- ・中之島・御堂筋をはじめとした世界に誇れる景観や建造物にライトアップ、イルミネーションを展開し、魅力ある都市景観を演出する。

◎光と水のページェント

- ・道頓堀川の水面に映るネオンなど、光と水による幻想的な大阪のイメージを、都心部を囲む河川全域で展開することにより、美しい水都大阪の名所づくりを行う。
- ・実施にあたっては、沿川の市民や企業との協働により取り組む。

②周遊システムの構築

水都大阪の歴史・文化拠点を巡る交通手段を設定し、都心部における周遊性を高め、観光客や市民に役立つ交通システムを確立する。

【システム例】

◎水上観光用のバス・タクシーの運営・水上周遊ルートの設定

- ・水都大阪の観光魅力ともなる観光用の水上交通手段として水上バスやタクシーを運営するほか、水上の観光周遊ルートを設定したリバークルージングを構築する。

◎陸上の周遊トロリーバスの運営と水上ルートとの連携

- ・陸上の交通手段として大阪の名所や集客拠点を巡廻するトロリーバスを運営する。
- ・船や鉄道など、他の公共交通機関との連携を考慮してルートを設定する。

③情報システムの構築

来訪者の利便性と満足度を向上させて観光集客都市大阪のイメージを高めるための情報ネットワークシステムを構築する。

【システム例】

◎インターネットによる情報発信と検索予約システムの構築

- ・インターネットシステムの活用により、大阪の文化・観光情報の検索システムや、宿泊施設・交通機関などの旅行に付随する施設の予約が可能な情報システムを構築し、利用者の利便性と満足度の向上を図る。

◎ICカードを利用した交通機関と集客施設の連携

- ・文化・集客施設の入場や交通機関を一体的に利用できるICカードを発行する。
- ・発行に際しては、鉄道会社や観光関連産業と協働するほか、既存システムとの連携を図る。

(4)シンボルイベント

①位置づけ

段階的取組みにより、新たなソフトや基盤が整う中で、大阪のイメージを確立するようなシンボルイベントを開催し、より一層の活性化を図る。一過性のイベントとしてではなく、その後も継続して関連するイベントを展開する。

②開催時期・場所

- ・平成16年(2004)頃からプレイベントを開催し、平成19年(2007)～平成21年(2009)のいずれかでの開催を目指す。
- ・大阪を代表する歴史・文化資源集積エリアである大阪城及び大川・中之島一帯をメイン会場とし、都心部全体をサブ会場としてイベントを開催する。
- ・都心部だけでなく、大阪市域や近隣都市においても関連イベントを開催する。

③事業推進に向けて

- ・公民協働により取組むほか、大阪にゆかりある著名人やマスコミの協力を得て取組む。
- ・ハード事業とソフト事業との連携を強化し、相互が効果的に働くことにより魅力を醸成させる。
- ・運営に際しては、特別目的会社(SPC)を設立するなど、行政だけでなく民間資金を導入できる仕組みを構築する。

(5)ハード整備との連携

①魅力ある水上観光ルートの整備

都心部での周遊性を高めるための周遊システムの構築に向けて、それぞれの河川の特徴を活かした、乗船の動機づけとなる水辺の魅力づくりを進める。

【整備例】

- ・東横堀川：高速道路に覆われた特徴ある空間を活かしたライトアップや植栽等の環境整備
- ・道頓堀川：大阪を代表する夜景であるネオンサインの地域的拡大
- ・全域：それぞれの河川の特徴を活かした水辺に向けた沿川建物の景観形成や緑化の推進

②水辺の住宅地整備

大川沿岸などにおいて、立地の特性を活かした魅力ある住宅地整備を推進する。その際、水辺の良好な景観形成に資するよう誘導する。

③都市再開発プロジェクトにおける「花と緑・光と水のまちづくり」の推進

- ・ビジネス・都心機能向上を図るプロジェクトの中においても、「花と緑・光と水のまちづくり」を積極的に取り入れる。梅田北ヤード再開発においては、こうした観点を踏まえ、大都市・大阪の玄関口としてふさわしい魅力ある環境の創造を誘導する。

4. 花と緑・光と水を活かしたまちづくりを進めるために

(1) 推進体制の整備

① ワンストップ機能を持つ推進機構の整備

自らイベントを企画し実施するとともに、民間のイベントの実施や船舶運航等の管理、河川や沿岸での営業などについて各方面との窓口になって調整を行うなど「花と緑・光と水のまちづくり」に中心的役割を担うワンストップ機能を持つ「推進機構」を、既存の組織の活用も含めて設立する。

② 公民協働のネットワークの確立

この「推進機構」を核として行政・経済界・市民・NPO等が役割を分担し、一体となって事業に取り組むための協力ネットワークを形成する。

(2) 「水の都再生協議会」との連携

水の回廊づくりを大阪再生のシンボルにかかげ、ハードも含めた事業調整機能を有する組織である「水の都大阪再生協議会」との連携を進める。

(3) 広域連携の強化

このエリアにおける事業推進を核として、府域さらには京都、神戸、奈良などの「花と緑・光と水のまちづくり」との連携を図り、より集客力のあるイベントへと発展させていく。

(4) 積極的な情報発信とプロモーション

平成15年度に発足する「(財)大阪観光コンベンション協会」の協力を得て、国内外への積極的な情報発信とプロモーションを展開する。

5. これからの進め方について

今後、「大阪花と緑・光と水のまちづくり」の内容の実現のため本懇話会に幹事会を設置する。その中で、公民協働の仕組みづくりの核となるワンストップ機能を持った「推進機構」のあり方やシンボルイベント開催に向けた組織づくりと資金調達方法等についての検討を進める。

また、(財)大阪21世紀協会提案の「水の都大阪再生の戦略」をベースに具体的な事業計画づくりを行う企画検討委員会を設置し、実行に向けた検討を進める。

<参考資料>

■ 花と緑・光と水懇話会 委員名簿

《構成メンバー》

磯村隆文	大阪市長
太田房江	大阪府知事
秋山喜久	(社)関西経済連合会会長
田代和	大阪商工会議所会頭
浅田和男	(社)関西経済同友会代表幹事
領木新一郎	(社)大阪工業会会長
熊谷信昭	(財)大阪21世紀協会会長
大西正文	(社)大阪観光協会会長
安藤忠雄	東京大学大学院教授(総合アドバイザー)

■ 花と緑・光と水懇話会 検討経緯

設立会議

日時：平成14年9月30日(月) 16時15分～17時

場所：大阪市長公館

内容：本懇話会の設立趣旨の説明とこれに対する出席者からの意見表明がなされた。また、座長に磯村大阪市長を選任するとともに、学識者からの意見も取り入れるため、安藤忠雄氏に総合アドバイザーを依頼することとした。

第1回懇話会

日時：平成14年11月6日(火) 10時30分～12時

場所：大阪市中心公会堂

内容：総合アドバイザーの安藤忠雄氏も含め、各出席者から、「花と緑・光と水」を活かしたまちづくりについて、自由な忌憚のない意見交換を行った。

第2回懇話会

日時：平成14年12月18日(水) 17時～18時30分

場所：リーガロイヤルホテル

内容：(財)大阪21世紀協会から「水の都大阪再生の戦略」の提案を受け、事業推進のための組織づくりやシンポルイベントなども含めた広い観点からの意見交換を行った。

第3回懇話会(予定)

日時：平成15年3月17日(月) 10時～10時50分

場所：大阪市長公館

内容：懇話会での議論を「大阪 花と緑・光と水のまちづくり」として取りまとめ、今後、これをもとに大阪のまちづくりを進めていくことに合意した。